

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20223003	研究期間	平成20年度～平成23年度
研究課題名	地域統合のスピルオーバー効果とサイクル効果:アジアと拡大EUの成長と循環	研究代表者 (所属・職)	高阪 章 (大阪大学・国際公共政策研究科・教授)

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、国際貿易・国際資本フローを通じた「スピルオーバー効果」と「サイクル効果」による地域統合が、アジアの成長にどのように寄与してきたかを、拡大EUとの比較によって明らかにしようとするものである。それぞれの領域で日本をリードする研究者が集まり、各人が着実に研究成果を国内外に査読付論文として公表しており、研究が着実に進展していることを窺わせる。また、国際ワークショップ開催を通じた研究成果の発表・討議を積極的に行っており、新聞、テレビ、公開講演会などを通じた、研究成果の社会・国民への発信にも努めている。

ただし、主たる関心が異なった研究者による共同研究や研究連携が、十分有機的・効率的に行われているのかどうか必ずしも明らかでない。

平成20年度・21年度の研究活動は、研究成果の創出と公表・発信など複数の評価軸からみても順調に進んできた。当初目標に向け、研究期間内に十分な成果が挙げられるものと期待できる。

ただ、当初の研究計画からは恐らく予測できなかった「世界金融危機」が起り、拡大EUとアジアに様々な問題を投げかけている。ヨーロッパではギリシャのソブリン債務危機やユーロの存続問題などが生じており、アジアでは欧米市場をターゲットにした生産ネットワークの今後の意義が問われている。こうした新たな問題にも分析を進められれば、本研究課題の当初目標を超える期待以上の成果が得られるものと思われる。

【平成24年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	当初の研究目的である国際貿易・国際資本フローを通じた「スピルオーバー効果」と「サイクル効果」による地域統合が、アジアの成長にどのように寄与してきたかが、拡大EUとの比較によって明らかにされた。研究成果の創出と公表・発信など複数の評価軸からみて、当初の予定どおりの成果が達成された。グローバル金融危機と東日本大震災が日本の輸出に与えた影響や、国際産業連関データベースの構築による東アジア・欧米間での波及メカニズムの分析も進展しており、今後の論文発表により研究成果のより社会的な周知を期待する。